

分析美学の諸問題

Problems of Analytic Aesthetics

- ① 美学(芸術学)の目的
- ② 芸術の定義
- ③ 作品と解釈
- ④ 美の定義
- ⑤ 美の論理学?
- ⑥ 美と意識
- ⑦ 美的と倫理的
- ⑧ 対象化
- ⑨ 情報美学
- ⑩ ジャンル
- ⑪ 進化美学
- ⑫ メタ芸術
- ⑬ 虚構
- ⑭ 観測選択効果(1)
- ⑮ 観測選択効果(2)

第1章 美学の目的

「分析美学」の歴史

●前史 「分析哲学」の誕生

George Edward Moore *Principia Ethica* 1903

Bertrand Russell “On Denoting” 1905

→日常言語学派

→人工言語学派

■第一期 言語論的転回、伝統的定義への懐疑 規範美学からメタ美学へ

William Elton編 *Aesthetics and Language* 1948～1954

■第二期 伝統的定義の創造的認知

Morris Weitz “The Role of Theory in Aesthetics” 1956

■第三期 芸術記号論、情報美学

Susanne K. Langer *Philosophy in a New Key: A Study in the Symbolism of Reason, Rite and Art* 1941

■第四期 定義の競合 機能主義、制度主義、歴史主義

Arthur Danto “The Artworld” 1964

■第五期？ 進化美学、環境美学への展開 メタ美学から規範美学・応用美学へ

基本的な「分析」

・解釈と理論 個別研究(批評)と普遍化(メタ批評)

・個別研究 [記述、解釈、評価] →反本質主義の(逆)メタ批評

メタ美学 → 美学・メタ批評 → 批評 → 芸術作品 → 現実・仮想 → 実在世界
方法的反省 → 理論的一般化 → 解釈 → 必然性・蓋然性 → 個別性

・普遍化

・形而上学的、経験科学的、形式科学的

・規範美学、応用美学、メタ美学

・方法論 [還元主義、非還元主義、全体論]

・言語的・記号的研究 [構文論、意味論、語用論]

・哲学的研究 [存在論、認識論、価値論]

・表現論 [再現、表出、即自]

・制作論 [記述、選択、創造]

メタ批評のわびしさ？ 「二次的学問」としての分析美学

cf. John Arthur Passmore “The Dreariness of Aesthetics” 1951

Richard Shusterman *Analytic Aesthetics* 1989

『ポピュラー芸術の美学』勁草書房 1999

- ① 芸術はFである
- ② 美学は、芸術の重要な性質を共有する
- ③ Fは芸術の重要な性質である
- ④ 分析美学はFでない
- ∴ ⑤ 分析美学は美学でない

- ◎前提に偽なる命題はないか？
- ◎推論は妥当であるか？
- ◎結論が真であってもOKでは？

- ①→ 現代芸術の難解さ、哲学的傾向
非知覚的な芸術 認知的性質の優越
- ②→ 合成の誤謬（動物学や天文学は？）
「共有」の意味（指示対象の性質を暗示する、という意味では共有は必然的だが）
美学の外延を制限か（文字通りには強すぎる主張。記述ではなく潜在的な規範）
- ③→ Fは重要な性質か？（①参照）
- ④→ 分析美学は本当にFでないか？
Fに匹敵する新たな芸術的性質の可能性
- ⑤→ 美学でなくて結構、美学でなくても（むしろない方が）優れた学問でありうるはず（もともとメタ美学は美学批判を意図→⑤の現状肯定的含意に潜在的な規範）
- ⑥ 論理式で再構成して厳密に検証せよ

メタ批評のわびしさ? 「二次的学問」としての分析美学

cf. John Arthur Passmore “The Dreariness of Aesthetics” 1951

Richard Shusterman *Analytic Aesthetics* 1989

『ポピュラー芸術の美学』勁草書房 1999

- ① 芸術はFである
- ② 美学は、芸術の重要な性質を共有する
- ③ Fは芸術の重要な性質である
- ④ 分析美学はFでない
- ∴ ⑤ 分析美学は美学でない

- ① $\forall x(Gx \supset Fx)$
- ② $\forall x \forall y(Gx \wedge By \supset \forall f(fx \wedge Jf \supset fy))$
- ③ JF
- ④ $\forall x(Ax \supset \sim Fx)$
- ∴ ⑤ $\forall x(Ax \supset \sim Bx)$

- ・ ②に③を当てはめて

$$\forall x \forall y(Gx \wedge By \supset (Fx \supset Fy))$$

- ・ 対偶により

$$\forall x \forall y(Gx \wedge By \supset (\sim Fy \supset \sim Fx))$$

- ・ yに分析美学の任意の事例bを当てはめて

$$\forall x(Gx \wedge Bb \supset (\sim Fb \supset \sim Fx))$$

- ・ それを変形して

$$\forall x(Gx \wedge Bb \wedge \sim Fb \supset \sim Fx) \quad \dots \#$$

- ・ ④から全称例化で、 $\sim Fb$

- ・ それを#に当てはめて

$$\forall x(Gx \wedge Bb \supset \sim Fx)$$

- ・ xに任意の芸術cを当てはめて

$$Gc \wedge Bb \supset \sim Fc$$

- ・ Gc ゆえ変形して $Bb \supset \sim Fc$

- ・ 対偶により $Fc \supset \sim Bb$

- ・ ①より Fc

- ・ 前件肯定により $\sim Bb$

- ・ 全称汎化により $\forall x(Ax \supset \sim Bx)$

メタ批評のわびしさ? 「二次的学問」としての分析美学

cf. John Arthur Passmore “The Dreariness of Aesthetics” 1951

Richard Shusterman *Analytic Aesthetics* 1989

『ポピュラー芸術の美学』勁草書房 1999

- ① 芸術はFである
- ② 美学は、芸術の重要な性質を共有する
- ③ Fは芸術の重要な性質である
- ④ 分析美学はFでない
- ∴ ⑤ 分析美学は美学でない

↓ 前ページの論証の簡約版

- ① $\forall x(Gx \supset Fx)$
- ② $\forall x \forall y(Gx \wedge By \supset \forall f(fx \wedge Jf \supset fy))$
- ③ JF
- ④ $\sim Fb$ (b … 任意の分析美学の理論)
- ∴ ⑤ $\sim Bb$

- ②に③を当てはめて
$$\forall x \forall y(Gx \wedge By \supset (Fx \supset Fy))$$
- 対偶により
$$\forall x \forall y(Gx \wedge By \supset (\sim Fy \supset \sim Fx))$$
- yにbを当てはめて
$$\forall x(Gx \wedge Bb \supset (\sim Fb \supset \sim Fx))$$
- それを変形して
$$\forall x(Gx \wedge Bb \wedge \sim Fb \supset \sim Fx)$$
- それに④を当てはめて
$$\forall x(Gx \wedge Bb \supset \sim Fx)$$
- xに任意の芸術cを当てはめて
$$Gc \wedge Bb \supset \sim Fc$$
- Gcゆえ変形して $Bb \supset \sim Fc$
- 対偶により $Fc \supset \sim Bb$
- ①より Fc
- 前件肯定により $\sim Bb$

前提を弱めることによる論証の再構成

- ① 芸術はFである
- ② 美学は、芸術の重要な性質を共有するべきである
- ③ Fは芸術の重要な性質である
- ④ 分析美学はFでない
- ∴ ⑤ 分析美学は美学であるべきでない

- ① $\forall x (Gx \supset Fx)$
- ② $\Box \forall x \forall y (Gx \wedge By \supset \forall f (fx \wedge Jf \supset fy))$
 $\forall x \forall y \Box (Gx \wedge By \supset \forall f (fx \wedge Jf \supset fy))$
 $\forall x \forall y (Gx \wedge By \supset \Box \forall f (fx \wedge Jf \supset fy))$
 $\forall x \forall y (Gx \wedge By \supset \forall f (fx \wedge Jf \supset \Box fy))$
- ③ JF
- ④ $\sim Fb$
- ∴ ⑤ $\sim Bb \quad \Box \sim Bb \quad \sim \Diamond Bb$

- ① 芸術はFである
- ② 優れた美学は、芸術の重要な性質を共有する
- ③ Fは芸術の重要な性質である
- ④ 分析美学はFでない
- ∴ ⑤ 分析美学は優れた美学でない

- ① $\forall x (Gx \supset Fx)$
- ② $\forall x \forall y (Gx \wedge SB_y \supset \forall f (fx \wedge Jf \supset fy))$
- ③ JF
- ④ $\sim Fb$
- ∴ ⑤ $\sim SBb$

SBx ≡ Sx ∧ Bx としてよいか？
 SBx ∧ ∼Sx なる x はありうるか？
 (ex. my old friend)

否定と様相の作用範囲、存在含意

- 「シャーロック・ホームズは英国人である」 の否定は？

P は Q の否定である $\equiv P \supset \sim Q \wedge Q \supset \sim P$

排中律 $P \vee \sim P$ 二重否定法則 $P \equiv \sim(\sim P)$

$\exists x(S1x \wedge S2x \wedge \dots \wedge \forall y(S1y \wedge S2y \wedge \dots \wedge By \supset x=y) \wedge Bx)$

- 「シャーロック・ホームズは英国人でない」 ?

$\exists x(S1x \wedge S2x \wedge \dots \wedge \forall y(S1y \wedge S2y \wedge \dots \supset x=y) \wedge \sim Bx)$

$\sim \exists x(S1x \wedge S2x \wedge \dots \wedge \forall y(S1y \wedge S2y \wedge \dots \supset x=y) \wedge Bx)$

- 「シャーロック・ホームズは架空の(必然的に、偶然に)英国人である」 はどう記号化する？

$\exists x(S1x \wedge S2x \wedge \dots \wedge \forall y(S1y \wedge S2y \wedge \dots \wedge By \supset x=y) \wedge \text{in } FBx)$

$\exists x \text{in } F(S1x \wedge S2x \wedge \dots \wedge \forall y(S1y \wedge S2y \wedge \dots \wedge By \supset x=y) \wedge Bx)$

$\text{in } F \exists x(S1x \wedge S2x \wedge \dots \wedge \forall y(S1y \wedge S2y \wedge \dots \wedge By \supset x=y) \wedge Bx)$

- 「ゴッホは、自分が歴史に名を残すと知っていた」 の否定は？

$\exists x(Gx \wedge \forall y(Gy \supset x=y) \wedge KxRx)$

$\exists x(x=g \wedge KxRx)$

$KgRg$

- 「ゴッホは、自分が歴史に名を残すとは知らなかった」 ?

$\exists x(Gx \wedge Kx \sim Rx) \quad \exists x(Gx \wedge \sim KxRx) \quad \exists x \sim (Gx \wedge KxRx) \quad \sim \exists x(Gx \wedge KxRx)$

$\exists x(Gx \wedge \sim KxRx \wedge Rx)$

一般に、三人称の「 x は p を知らない」は、 $\sim Kxp$ ではなく、 $\sim Kxp \wedge p$

「 a は P を知っている」が偽であることから、「 a は P を知らない」は導けない。

慈悲深い殺人のパラドクス

paradox of gentle murder

優れた美学は、劣った美学よりも、優れた学問だろうか？

優れた芸術作品は、劣った芸術作品よりも、優れた文化財だろうか？（前提①への疑義）

「べしの論理」

$$\Box(Q | P) \equiv P \supset \Box Q$$

$$\Box(Q | P) \equiv \Box(P \supset Q)$$

① 人を殺すならば、慈悲深く人を殺すべきである

$$P \supset \Box(P \wedge Q)$$

$$\Box(P \supset (P \wedge Q))$$

② あなたは人を殺す

$$P$$

∴ ③ あなたは慈悲深く人を殺すべきである

$$\Box(P \wedge Q)$$

④ 慈悲深く人を殺すためには、人を殺さねばならない

$$\Box(P \wedge Q) \supset \Box P$$

$$\Box(\Box(P \wedge Q) \supset P)$$

∴ ⑤ あなたは人を殺すべきである

$$\Box P$$

①④の記号化を正しい分析と認めれば、「あなたは人を殺す ナラバ あなたは人を殺すべきである」

ひいては

「誰であれ殺人者は、人を殺すべきだったのである」が証明できた。

① 誰であれ、美学を学ぶならば、優れた美学を学ぶべきである

② あなたは美学を学ぶ

∴ ③ あなたは優れた美学を学ぶべきである

④ 優れた美学を学ぶためには、美学を学ばねばならない

∴ ⑤ あなたは美学を学ぶべきである

「誰であれ、美学を学ぶ者は、美学を学ぶべきである」が証明できた。

……様相はなるべく使わずにすまずのが望ましい。(量化への還元)

$$\Box P \equiv \forall w Pw$$

$$\Diamond P \equiv \exists w Pw$$

$$\forall w Pw \equiv \sim \exists w \sim Pw$$

$$\exists w Pw \equiv \sim \forall w \sim Pw$$

Postulate 1

美的対象は知覚的对象である。すなわち、美的対象は提示 (presentation; 提示された姿) を持ちうる。

$$\exists x \exists y (Ax \wedge Pxy) \quad \forall x \exists y (Ax \supset Pxy) \quad y \text{は提示である} \cdots \exists x (Ax \wedge Pxy)$$

練習問題: $\exists y \forall x (Ax \supset Pxy)$ と記号化できない理由は?

Postulate 2

同一の美的対象の複数の提示が、さまざまな時点に、さまざまな人々に対して現われることがある。

$$\forall x \exists y \exists z \exists t \exists s (Ax \supset P'_{xyt} \wedge P'_{xzs} \wedge t \neq s) \quad Pxy \cdots \exists t P'_{xyt}$$

Postulate 3

同一の美的対象の二つの提示が、互いに異なることがある。 $Rxy \cdots y$ はxの特徴である

$$\forall x \exists y \exists z \exists u (Ax \supset Pxy \wedge Pxz \wedge Ryu \wedge \sim Rzu)$$

練習問題: $\forall x \exists y \exists z (Ax \supset Pxy \wedge Pxz \wedge y \neq z)$ と記号化できない理由は?

Postulate 4

特定のいかなる提示においても、美的対象の諸特徴がすべて顕わになることはないかもしれない。

$$\exists x (Ax \wedge \sim \forall y (Cxy \supset \exists z (Pxz \wedge Rzy))) \quad \exists x \sim \exists z \forall y (Cxy \supset (Pxz \wedge Rzy))$$

Postulate 5

提示は真性でありうる; 提示の諸特徴は美的対象の諸特徴に対応していることがありうる。

$$\exists x \exists z (Ax \wedge Pxz \wedge \forall y (Rzy \supset Cxy)) \quad \exists x \exists z (Pxz \wedge \forall y (Rzy \supset Cxy))$$

Postulate 6

提示は偽りでありうる; 提示の諸特徴のいくつかが美的対象の諸特徴に対応しそこなうことがありうる。

$$\exists x \exists y \exists z (\sim Cxy \wedge Pxz \wedge Rzy) \quad \text{提示}z \text{は偽り} \quad \text{ill}z \equiv \exists x \exists y (\sim Cxy \wedge Pxz \wedge Rzy)$$

練習問題: $\exists x \exists y \exists z (Cxy \wedge Pxz \wedge \sim Rzy)$ と記号化できない理由は?

Postulate 7

同一の美的対象の二つの提示が相容れない特徴を持つならば、少なくとも一方の提示は偽りである。

$$\forall x \forall y \forall z \forall u \forall v (Pxy \wedge Pxz \wedge Ryu \wedge Rzv \wedge \forall w (Rwu \supset \sim Rvw) \supset (\text{illy} \vee \text{ill}z))$$

練習問題: $\forall x \forall y \forall z \forall u (Pxy \wedge Pxz \wedge Ryu \wedge \sim Rzu \supset (\text{illy} \vee \text{ill}z))$ と記号化できない理由は?

文献

Morris Weitz “The Role of Theory in Aesthetics” (1956) Joseph Margolis ed. *Philosophy Looks at the Arts: Contemporary Readings in Aesthetics* (Temple U. P., 1987)

Monroe C. Beardsley *Aesthetics: Problems in the Philosophy of Criticism* (1958; reissued with a postscript, 1981)

Richard Shusterman *Analytic Aesthetics* (Blackwell, 1989)

リチャード・シュスターマン『ポピュラー芸術の美学』(勁草書房 1999)

分析的思考の重要性について

リチャード・E. ニスベット『木を見る西洋人 森を見る東洋人』(ダイヤモンド社 2004)

議論における「実感」の罫について

三浦俊彦『戦争論理学 あの原爆投下を考える62問』(二見書房 2008)